

遠い未知の国へ

2026.3.31 の午前便で沖縄から成田へ、翌日成田から米国シカゴ、マイアミと2回のトランジットを経てエクアドルの首都キトに1日夜到着、実に20時間を飛行機内で過ごしました。エクアドル国内では国内空港便、長距離バス、そして船舶を駆使し、1週間は乗り物内で過ごしたのではないかと思います。旅を楽しむ前提であると身をもって感じました。

私のエクアドル訪問の契機は JICA ボランティアで現地に派遣されている友人の恭子さん激励です。加えて南米という日本から遥か遠い未知の国への好奇心があったのだと思います。最近の国際的な政情不安、世界情勢への危機感が一抹の不安を煽りましたが、周りの心配をよそに、安全対策を常に心がけ、友人への信頼を頼りに3週間のエクアドル生活を楽しみました。



言葉が違ってても…

恭子さんの任地であるインバブラ県ウルクキ市は小さな田舎町でしたが、そこに住んでいる人たちはフレンドリー＆カインドという言葉がピッタリで、行き交う人が互いに挨拶を交わします。スペイン語は一切話せない私ですが、「Hola! (こんにちは)」という一言は近所のお年寄りから道路工事の人、小さい子どもたちと挨拶を交わす機会を与えてくれました。エクアドルには色々な人種の人、多数派のスペインとの混血系、先住民系やアフリカ系の人などがいます。ホームステイ先のホストマザーはコロンビア人、恭子さんの同僚（ナイスガイ2人）は先住民系とアフリカ系です。私たち日本人2人はもちろんマイノリティです。アジア系が珍しいのか意外にもよく話しかけられました。また、恭子さんが活動しているヤチャイ技術大学の学生たちは、ほとんどがエクアドル各地から志高く学びを求めてやってきた若者たちで、彼らとは英語でのコミュニケーションが可能でしたが、恭子さんの通訳なしでは他の人とはコミュニケーションが全く取れない状況でした。それにもかかわらず笑顔で人々と接する時間が多かったと思います。大学の日本語クラブでは学生たちとのカルタゲーム、大学の同僚たちとは卓球ゲームや散歩、オフィスに隣接する食堂経営者との交流を通して、共に過ごす時間を持つことができました。エクアドルの観光地巡りだけでなく、こうした人々との出会いが一番の思い出です。



↑ 食堂のエクトルさんと。
↓ 日本語クラブで学生とゲームをしています。

おいしかったもの

「何が一番美味しいか」とか「エクアドルでは何が気に入ったか」という質問をよくされました。私がよく口にしていたのがバナナだったので、一番美味しいのはバナナと答えていました。種類が豊富でしかも食べ方が日本とは多少異なります。果物として食べるというよりは、潰して炒めて食べた『ティグリーヨ』、豚の皮をカリカリにしたものやチーズを入れて、コロッケのようにして食べる『ボロン』はとても美味しかったです。他にもキャッサバ、アボカド、レモンが豊富で実に美味しかったです。青いバナナを日本でも手に入れたら料理してみようと思ったりしています。エンセボヤードも美味しかったです。



← チョクロという甘くないとうもろこしにチーズなどをかけたおやつに挑戦中。

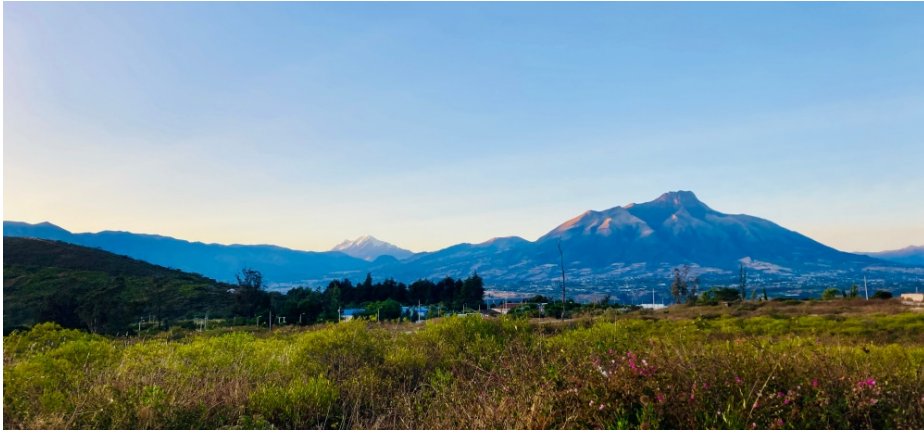
↓ 大学のランチタイム。



「帰国したら卓球を始めよう！」

エクアドルの魅力

私の住む沖縄は小さな島々からなる島嶼地域で、そのせいか美しいアンデスの山々が連なる延々と遥か彼方を見渡せる壮大な眺めは、それだけで感動的でした。インバプーラ、コタカチ、晴れた日には遠くカヤンベ火山まで見渡せ、圧巻でした。



↓ エクアドル到着の翌日にカヤンベ火山に行きました。ハードでした。



ガラパゴス諸島は別世界でした。目の前に現れた巨大なリクガメ、グロテスクだと思っていたけれどすごくキュートなリクイグアナや岩と同化したウミグアナ、アザラシ、ペンギン、一緒に海中で遭遇したウミガメなど、今となっては信じられないような体験でした。同じ海洋地域に住んでいて、よく似た植物はたくさんあるけれど、希少種の動物たちに会えて本当に嬉しかったです。



↓ ガラパゴスペンギンと泳ぎました！



→ 卵を立てる実験に挑戦中です。



またエクアドルの名にちなんだ赤道記念碑や赤道博物館、スペイン統治の名残を感じさせる世界遺産のクエンカの街やキトの歴史地区等、まるで異なる歴史を感じられ、今に至るまでの変遷を知りませんでした。遠い南米の古い歴史に触れる機会となりました。



この未知の旅は友人の恭子さんが導いてくれたもので、貴重な体験と魅力的な人々たちとの出会いは大きな喜びでした。皆様大切な時間をほんの数週間ですが共有でき、幸せな体験を得られたことに改めて Muchas gracias(本当にありがとう)。

振り返りながら、エクアドル滞在記での一番のお気に入りには遠い異国で色々な人に会えたことかもしれません。其々の違いに触れつつ、素敵だなあと感性がくすぐられました。帰国後のお土産で、家族、友人たちが「エクアドルはコーヒーが有名だね」とそれくらいの知識しかありませんが、危険な国ではなく温かい素敵な人たちがたくさんいる国で、恭子さんが益々輝けるよう祈念しています。ありがとう！

